

がんのおはなし

～はやくみつけて、はやくなおす～



財団法人 がん研究振興財団

この冊子は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。



あなたは思ったことはありませんか?
「がんはこわい病気」だと。

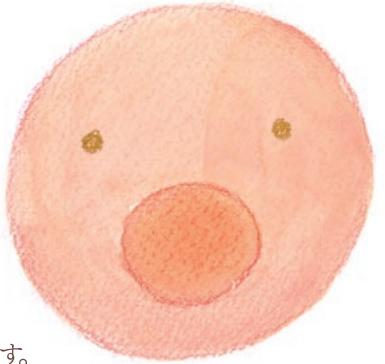
今、日本では3人に1人が、がんのために命を失っています。
でもそれほど多い病気なのに 私たちはがんに対して知らないことがいっぱい。

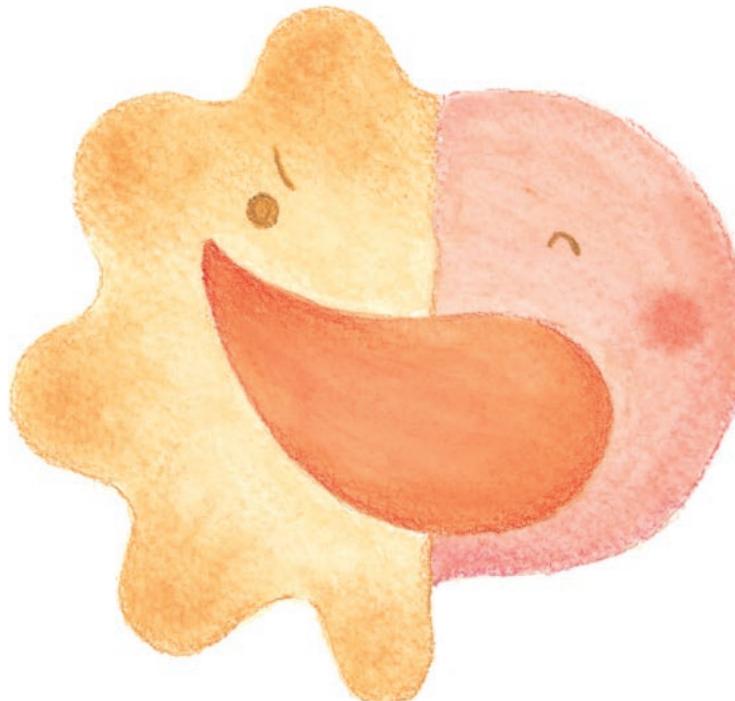
なぜ、がんという病気が起こるのか。

たった一個の細胞から発生するがん。
それが、長い長い時間をかけて成長していきます。

でも、早めに見つけて、早めに治療すれば
決してがんはこわい病気ではありません。
むしろ、がんのことを知らず、がんに注意を払わないことの方がこわいのです。

さあ、勇気を出して。
まずはがんを理解しましょう。



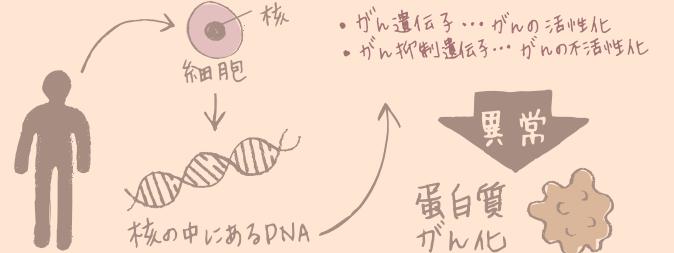


みんなもつて
る
へんしんする
『かもしけない』

そもそも「がん」とは? がんは細胞の遺伝子の変異によって起きる、遺伝子の病気です

私たちの体は、60兆個もの細胞によって成り立っています。その細胞の一つひとつに「核」があり、核の中には染色体DNAがあり、さらにDNAは3万個から4万個もの遺伝子が書きつづられています。そして、それぞれの遺伝子から、蛋白質がつくられ、私たちの体の成長、維持に利用されています。この遺伝

子が傷つくと、異常な蛋白質がつくられるようになります。その結果、細胞の増殖のコントロールがきかなくなり、細胞は無秩序に増えはじめます。この異常な細胞の集団が「がん」です。



★がん発生の仕組み

- ①約3万個の遺伝子の中には、がん遺伝子、がん抑制遺伝子と呼ばれる遺伝子があります。がん遺伝子から作られる蛋白質は細胞の増殖を促すアクセサリの役割、がん抑制遺伝子から作られる蛋白質は細胞の増殖を止めるブレーキの役割を果たしています。そして、これらの蛋白質が協力あって、体の細胞は、秩序立って分裂を繰り返してどんどん生まれ変わります。
- ②発がん物質（化学物質、放射線、ウイルスなど）によりがん遺伝子、がん抑制遺伝子に傷（変異）が起きると、異常な蛋白質が作られるようになります。その結果、細胞の増殖のコントロールがきかなくなり、細胞は無秩序に増えはじめます。この異常な細胞の集団が「がん」です。各がんによってどの遺伝子に傷がおこるかわかつてきました。傷ついた遺伝子は、自分で傷を治すことがあります、遺伝子を傷つけることが度重なったり、うまく傷を治せなかつた場合に細胞ががん化していきます。
- ③がんになりやすいかどうかは、発がん物質の摂取（環境要因）とDNAの個人差（遺伝要因）が関係していると考えられており、各個人で違っています。DNAの遺伝子を形成している物質（塩基）の配列には個人差があります。この個人差を「遺伝子多型」と呼びます。遺伝子多型は、体の中でできる蛋白質の量や性質の違いの原因となり、体格、性格や病気へのかかりやすさなど、その人生まれながらの体質の個人差を生み出しています。この多型によってもたらされる「発がん物質を代謝する酵素」、「DNAの傷を治す酵素」の活性の個人差は、体内的変異頻度の個人差を生み出し、がんになりやすくなる原因になると予想されています。



★がんは直接遺伝しない

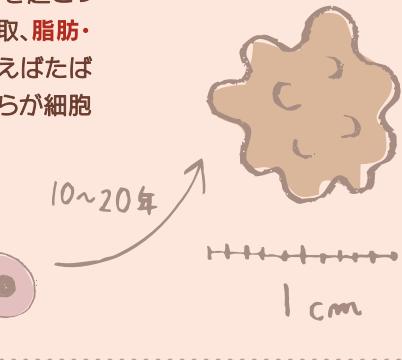
がんは遺伝子の病気ですが、親から子に直接遺伝する病気ではありません。あくまで遺伝子に異常が起こることで発生する病気です。



がんを起こす要因とは？ がんは食べ物や嗜好など生活習慣と密接な関係を持っています

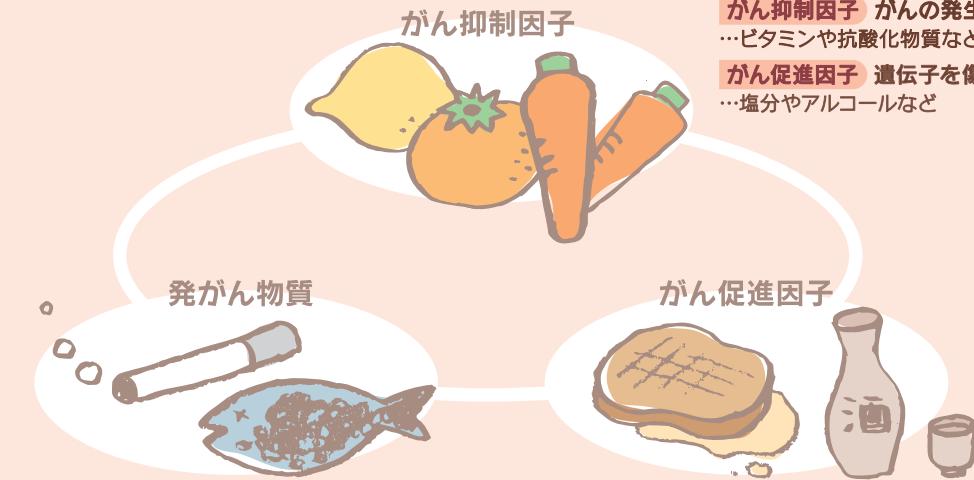
細胞のがん化によって起こるがんですが、では細胞のがん化はなぜ起こってしまうのでしょうか。多くの研究の結果、たばこやアルコールの摂取、脂肪・塩分の取りすぎががんの原因となることがわかっています。たとえばたばこには数十種類もの発がん物質(化学物質)が含まれており、それらが細胞の中の遺伝子を傷つけてしまうのです。

がん細胞の増殖のスピードは、最初のうちはゆっくりしています。一般的ながんの場合、直径1センチほどの初期がんになるまでに、10数年から20年もの年月を要するとか。従って長い間の悪い習慣、さまざまな要因が重なることで、がんはゆっくりと育っていくのです。



★がんに関わる要因

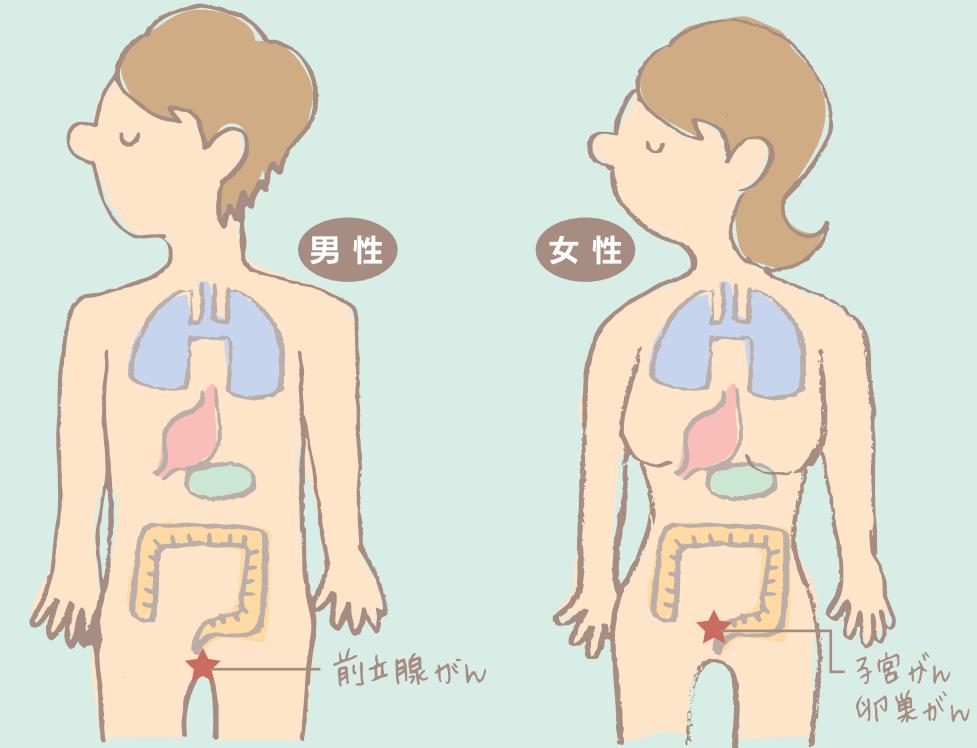
- 発がん物質** がんを引き起こす原因となる
…化学合成物質やたばこなど
- がん抑制因子** がんの発生や成長を抑える
…ビタミンや抗酸化物質など
- がん促進因子** 遺伝子を傷つきやすくする
…塩分やアルコールなど





がんができる場所は? がんにはさまざまな 種類があり、男性特有のがん、女性特有のがんもあります

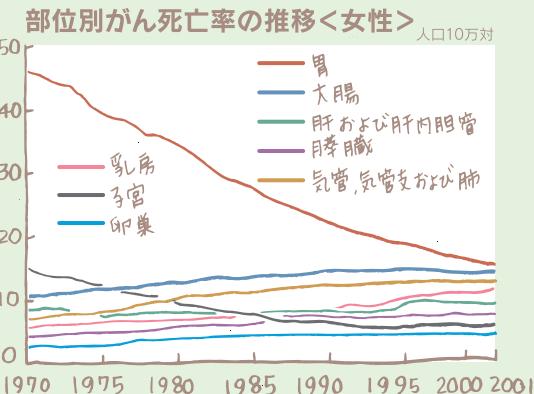
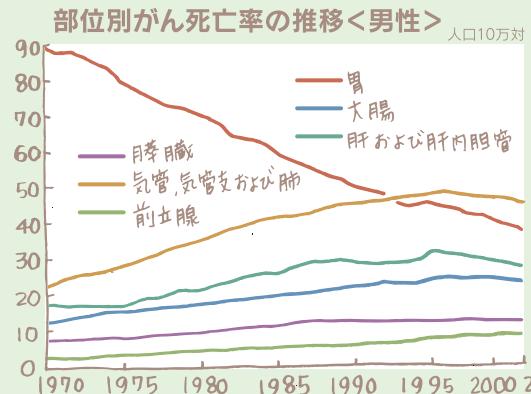
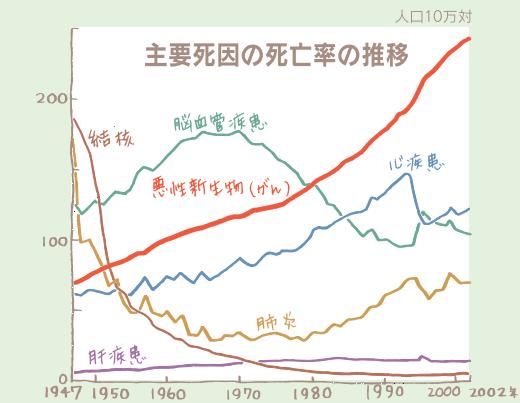
胃がん、肺がん、肝臓がん、大腸がんなど、がんは体のさまざまな場所に発生します。また、前立腺がんや精巣腫瘍など男性にしかないがん、子宮がん、卵巣がんなど女性にしかないがん、臓器だけではなく皮膚や骨、血液、リンパ腺のがんもあるのです。





がんの現状は? 胃がんは減少傾向にあり、肺がんや大腸がんが増えています

日本人の死亡原因の第一位は結核から脳血管疾患へと移り、1980年にはがんがトップとなりました。その背景には食生活の欧米化などの原因が考えられています。また、がんの種類においても経年による変化を見て取ることができます。かつて多かった胃がんが減り、肺がんや大腸がんが増えるなど、ライフスタイルの変化とともにがんの発生状況が変化しています。

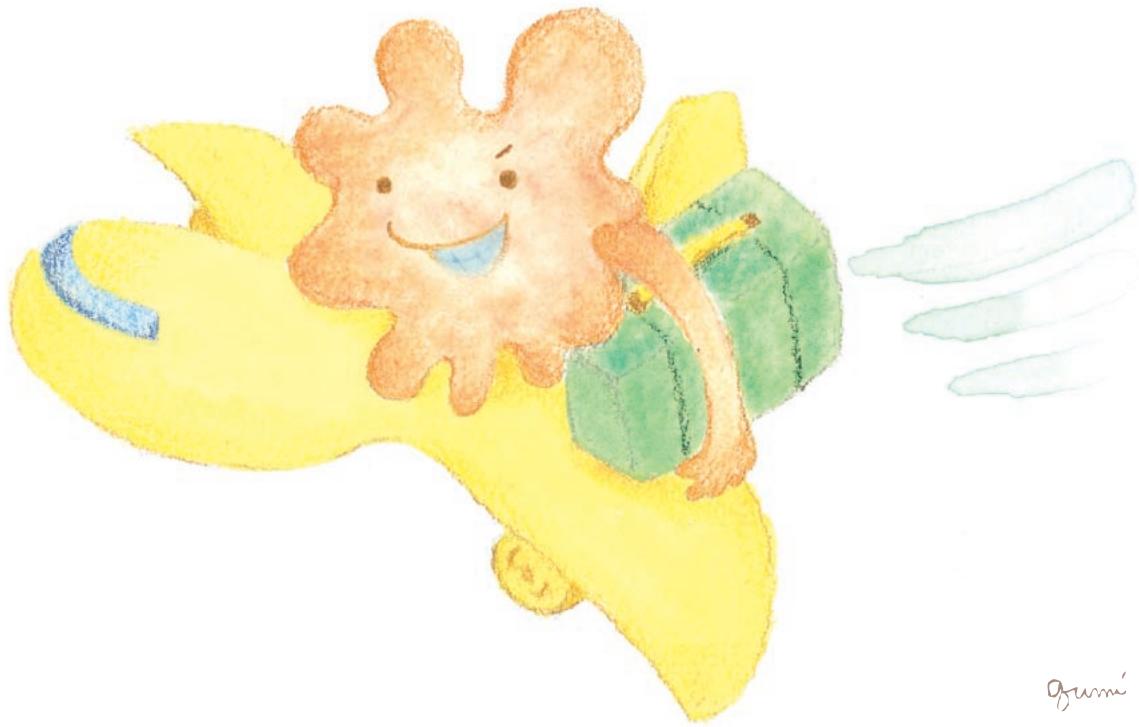


資料:厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

★がんは不治の病ではない

これほど発生の多いがんですが、決して不治の病ではありません。早期発見・早期治療により完治している例はたくさんあります。というのも先に述べたように、がんは20年もの時間をかけて育ち増していくのですから、早めに見つければ治療がそれだけ楽にできるのです。

いつのまにか
たびにでるのです

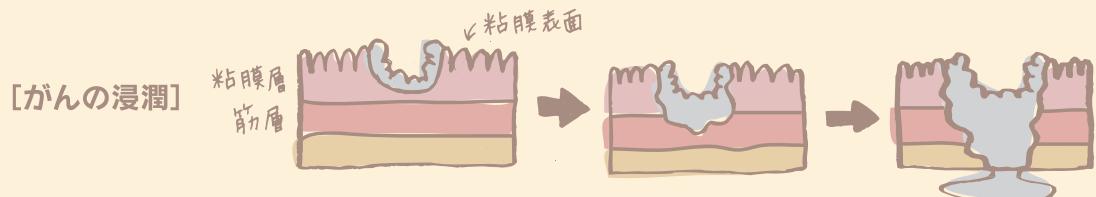


がんはなぜ怖い?

見過ごすと

周囲の組織に侵入したり、ほかの臓器への転移が起こります

細胞のがん化によって起こるがんは、がん化した細胞を早めに見つけて切除すれば治すことができます。ただ、早めに発見できなかった場合、がんは周囲の組織に侵入して大きく成長するばかりか、ほかの場所へと広がってしまいます。この成長と広がりが、がんのもっとも恐ろしい点なのです。



[がんの浸潤]



★早期発見が大切

がんは初期においてはほとんど自覚症状がありません。痛みや出血、腫れなどの症状が出た時には、浸潤や転移が進んでいることが少なくないのです。そのためにも定期的な検診が効果を発揮するのです。

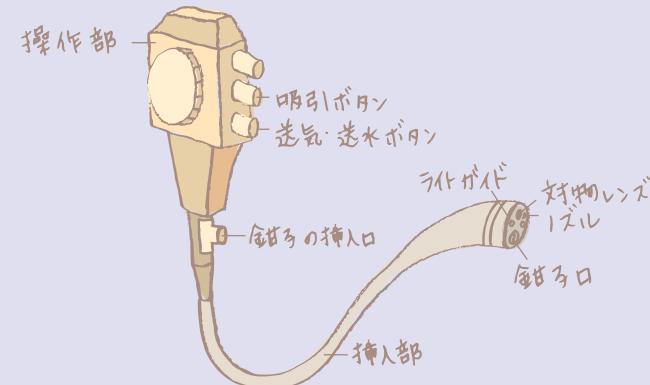
★正常な細胞とがん細胞の違い
細胞はどんどん増殖する性質を持っていますが、正常な細胞はほかの細胞と接触したら増殖をストップします。でもがん細胞は成長をやめることなく、周囲の組織にもどんどんと侵入し、増殖をやめようとしません。より深く、より広く、この成長を浸潤と呼んでいます。

がん細胞と正常な細胞の違いはもう一つあります。正常な細胞はもともとある場所以外では増殖しませんが、がん細胞はもともとある場所から移動して増殖する点。がん細胞は血液やリンパ液に混じって体のあちこちに広がったり、臓器と臓器の壁を突き破って広がったりするのです。この広がりを転移と呼んでいます。



がんの検査～その1：みる、触れる～ 体の外と中をしっかり見て、早期の異変を速やかに発見します

がん検診にはさまざまな方法がありますが、その第一段階ともいえるのが、身体に異常がないかを医師が目で確認する「視診」と医師が触って異常を発見する「触診」です。さらに見ることについては外側から見るだけではなく、内視鏡を使って、体の内部を見ることも一般的になっています。



[内視鏡の種類]

耳鼻咽喉科	喉頭ファイバースコープ	尿管鏡
	気管支鏡(軟性)	腔拡大鏡
呼吸器科	気管支鏡(硬性)	子宮鏡
	胸腔鏡	上部消化管内視鏡
	縦隔鏡	大腸内視鏡
泌尿器科	尿道膀胱鏡	腹腔鏡

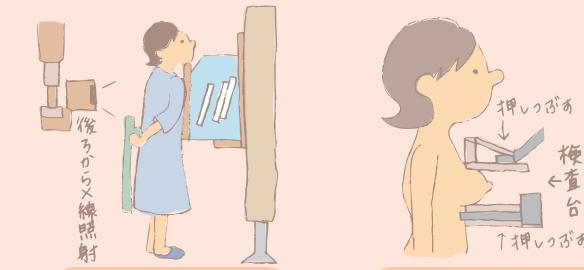
★内視鏡検査

内視鏡検査は食道、胃、十二指腸、大腸、胆道、腎、膀胱、気管支など管のようになった臓器に行われます。先端にカメラの付いた管を口や鼻、尿道、腎などのほか、体に開けた小さな穴から体内に送り込み、その様子を医師が直接見たり、モニターに写したりします。最大のメリットは変色やただれなど粘膜の表面に起こっている異変が発見できること。また、異常があった時に組織の一部も採取してさらに詳しい検査ができることです。こうした検査は痛い、苦しいという印象が強いのですが、技術の進歩で、患者さんの負担が少なくなるよう工夫されています。

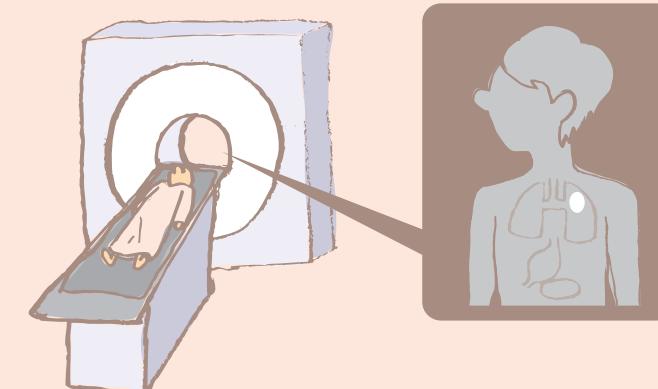


がんの検査～その2:透視する、映像化する～ がんの有無や性質、進行具合、転移があるかないかを調べることができます

画像検査の目的は二つ。一つはがんの有無を調べる「存在診断」。もう一つはがんがある場合にそれがどんな性質なのか、どのくらい進行しているのか、転移していないかを調べる「質的診断」。場合によっては絶食などの準備が必要ですが、肉体的な苦痛はさほどありません。



[エックス線検査]



★エックス線検査

体にエックス線をあてます。体を通過したエックス線の量は濃淡となって映し出されるので、がんの有無や大きさがわかります。

★CT検査、MRI検査

CT検査は、エックス線をあてる機械で、体の外側を一周して撮影。体を輪切りにしたような画像を見るできます。MRI検査は磁気や電磁波を使い、水素原子の動きをとらえて、体の断面を撮影します。ともに腫瘍の大きさや場所、形、数などが判断できます。

★PET

放射線医薬品を体の中に注射して、特殊カメラを使って撮影します。がんの活動状況、治療の効果などを調べることができます。最近ではCTと組み合わせたPET-CTが導入されています。

はんにんの
ふみあらした
てがかりだ



Ogumi'

がんの検査～その3：血液検査、細胞診、生検～

がんの有無を調べた後に、
そのできた場所に合わせて、さらに詳しい検査をします

万が一、がんが発見されたら、次に取るべき手段は患者さん一人ひとりに合わせた最適の治療法を見つけること。さらにその治療効果の程度を随時把握しておくこと。そのため行われるのが、血液や細胞の検査です。

[主な腫瘍マーカー]

マーカーの略称	関係するがん
A F P	胚細胞腫、原発性の肝細胞がん、肝芽腫、骨肉腫、精巣腫瘍
A L P	胆道がん
C A 125	肺臓がん、子宮頸がん、卵巣がん
C A 19-9	胃がん、大腸がん、胆道がん、肺臓がん
C E A	胃がん、大腸がん、胆道がん、肺臓がん、肺がん、子宮頸がん、乳がん
C Y F R A	子宮頸がん、食道・肺の扁平上皮がん
H C G	絨毛がん、胚細胞腫、精巣腫瘍
L D H	多くのがん
Mたんぱく	多発性骨髄腫
N M P 22	膀胱がん
PIVKA-II	肝細胞がん
P S A	前立腺がん
S C C	肺の扁平上皮がん、子宮頸がん
T P A	多くのがん
V M A	神経芽細胞腫



[乳がんの針生検]

★血液検査(腫瘍マーカー)

腫瘍マーカーはがん細胞が体内でつくる特有の物質のこと。主に血液を検査して腫瘍マーカーの数値を調べます。マーカーの値によりがんの進行具合を予測したり、治療効果の目安をることができます。

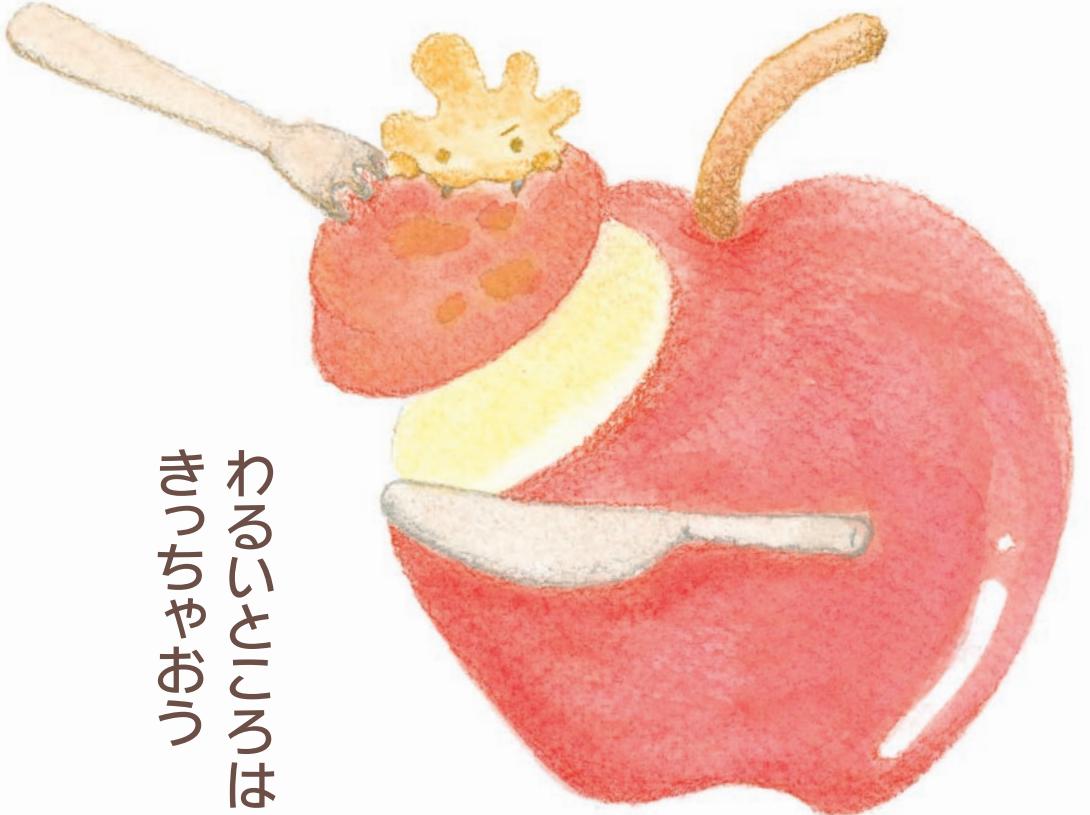
★細胞診

痰や尿、粘膜などを顕微鏡を使って詳しく調べる方法です。異常が発見された際にはさらに詳しい検査を行います。

★生検

患部に器具を挿入して細胞を取り出し、顕微鏡を使って詳しく調べる方法です。

わぬいといじりは きつひやおのづ



がんの治療～その1：切り取る～ 悪い部分を取り除くことで、がんを根絶やしにする治療法です

がんの治療法の中で、最も一般に知られているのが「切除」。つまり腫瘍を切り取ってしまう方法です。と
いうと患部を大きく切開する外科手術を思い浮かべますが、初期の特定のがんについては、体への負担
が少ない内視鏡による切除が行われています。

病変部を隆起させる



鉗子で引き上げる



スネアをかける



スネアを締める



[内視鏡的粘膜切除術(EMR)]



[ITナイフ]

★内視鏡による切除

検査に使う内視鏡で行う方法、胸や腹に孔を開けて行う方法(胸腔鏡、腹腔鏡)の2種類あります。内視鏡による切除では、がんに冒された部分をスネアと呼ばれる輪っか状の器具で切除します。がんが出っ張った形をしていない時には、生理食塩水などでがんを膨らませて、持ち上げてからスネアを使う「内視鏡的粘膜切除術(EMR)」という方法もとられます。また近年は「ITナイフ」という器具も開発されており、スネアでは切除できなかった大きながんの切除を可能にしています。

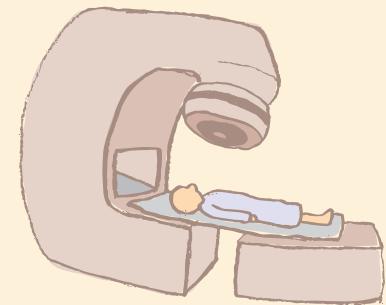
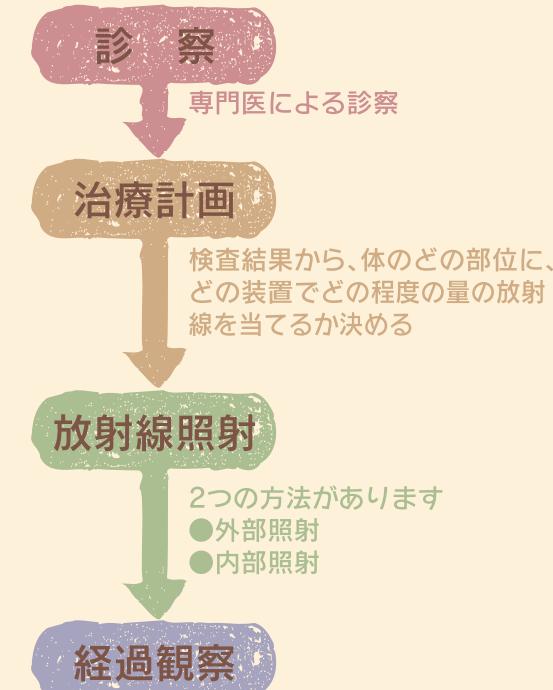
ときには
しゅううちゅういりがせいで
やつつかる



がんの治療～その2：放射線などでやつづける～ がん細胞が苦手とする放射線を使った治療法です

放射線療法とは、がん細胞が苦手としているエックス線やガンマ線、陽子線などの粒子線を患部にあてることで、がん細胞の分裂や増殖を抑える治療法です。患部だけを狙い撃ちにできるので、外科手術のように周りを切り取る必要はありません、臓器の形や機能を損なうこと也没有。一方ではエックス線やガンマ線の強いエネルギーによる副作用を起こすことがありましたか、研究が進んだ今は副作用のリスクも随分と軽くなっています。

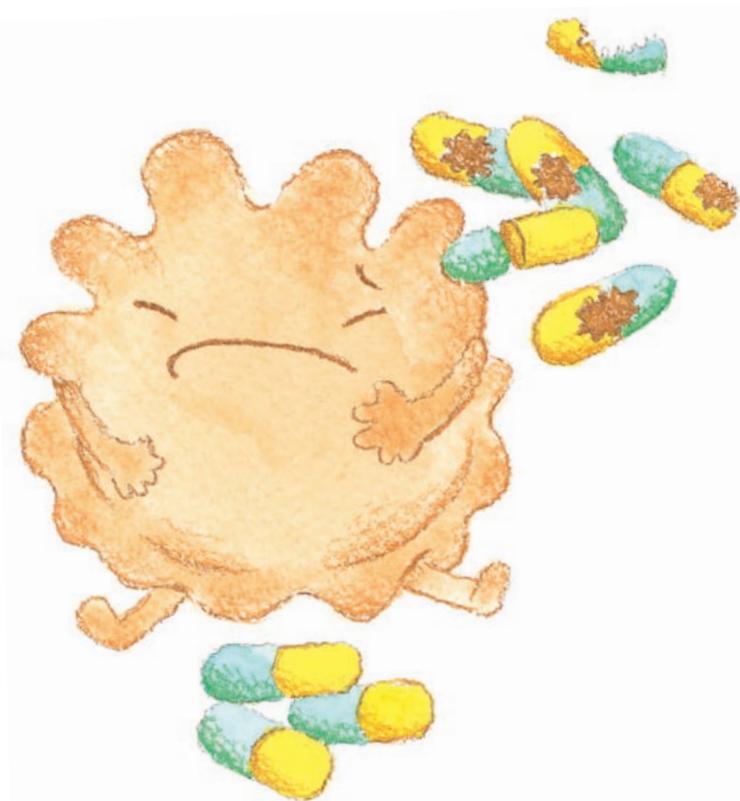
【放射線治療法の進め方】



★放射線療法

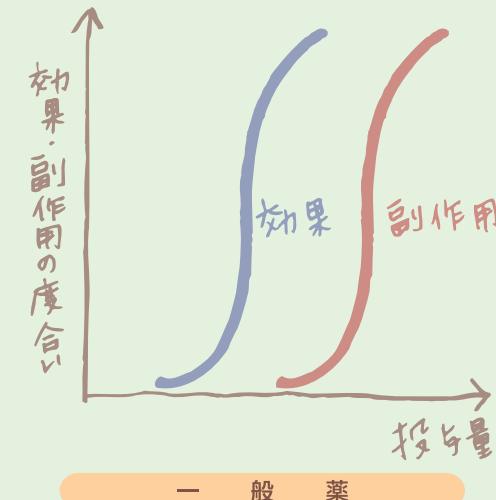
まず「診察」によりどこに、どんな装置をつかい、どのくらいの放射線をあてるかを決めます。次に放射線をあてる範囲や方向は、シミュレータをつかって画像化して検討する「治療計画」を立てます。放射線照射は体の外側からあてる外部照射と病巣部に器具を入れて行う内部照射があり、放射線をあてる回数はがんの種類によって異なりますが1ヶ月以上かかるのが通例。その後は副作用がないかどうかを見守る「経過観察」が行われます。

たいじする
たいじする



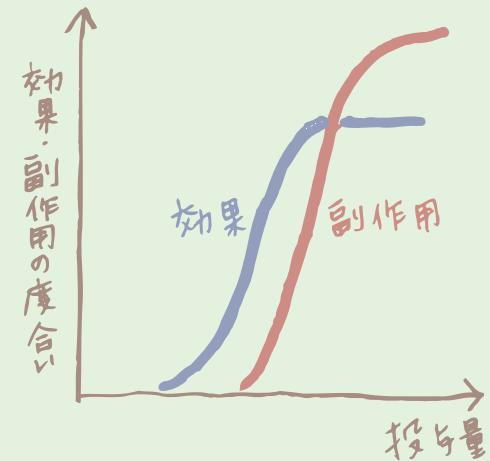
がんの治療～その3：薬でやっつける～ 全身に効果が及ぶ 抗がん剤やホルモン剤などの薬物による治療法です

薬をつかって行う治療を薬物療法といい、がんの場合には、がんそのものをやっつける働きを持つ抗がん剤、がんを殺す働きを助けるホルモン剤や免疫賦活剤をつかって行います。手術や放射線による治療との大きな違いは、これらが患部にピンポイントで有効なのに対して、薬物は効果が全身に及ぶ点。がん細胞が転移した場合や血液のがんなどに有効です。



一般薬

薬の効果が得られる量から副作用が現れるまでの量に大きな差があるので、ある程度の量で、十分な効果だけ得ることができます。



抗がん剤

薬の効果が得られる量と副作用が現れる量との差がほとんどなく、十分な効果が得られる量を用いると、副作用も現れてしまいます。

[一般薬と抗がん剤の違い]



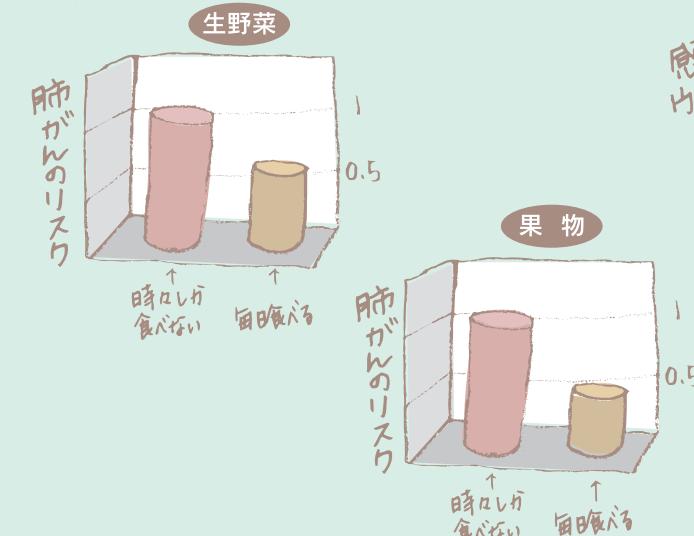
けつして
おうちに
いれない

Ogumi

がんを防ぐには？

がんを発生させる要因、がんを促進させる要因は身近にあります

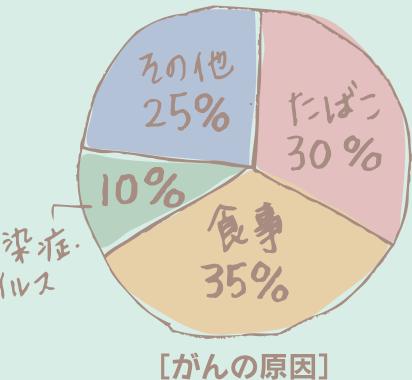
がんを発生させる原因となるのはウイルス、発がん物質、放射線・紫外線など。いずれも日常生活の中に潜んでいるものばかりです。だから逆に日常生活を改善すれば、がんのリスクを低めることができます。



[食事とがんのリスク]

★がんを抑える

自然界の中には、がんを抑える働きをもつものが存在しています。それらを有効にとり入れる方法は、バランスの良い規則正しい食事。新鮮な野菜や果物に含まれるビタミンやカリチンは、たんぱく質から生まれる発がん物質の働きを抑える効果があることが分かっています。また喫煙以外にも肥満やストレスもがんの発症に影響を及ぼします。適度な運動、バランスのとれた食生活、規則正しい生活リズムを心がけるようにしましょう。



★ウイルス

C型肝炎ウィルスなど

★発がん物質

たばこ、食べ物(食品に含まれる成分、食塩、焦げたもの、高脂肪・高カロリーのもの、熱いものなど)、環境や職業における曝露(粉塵、大気中の汚染物質、アスベスト・石綿など)など。

★放射線・紫外線

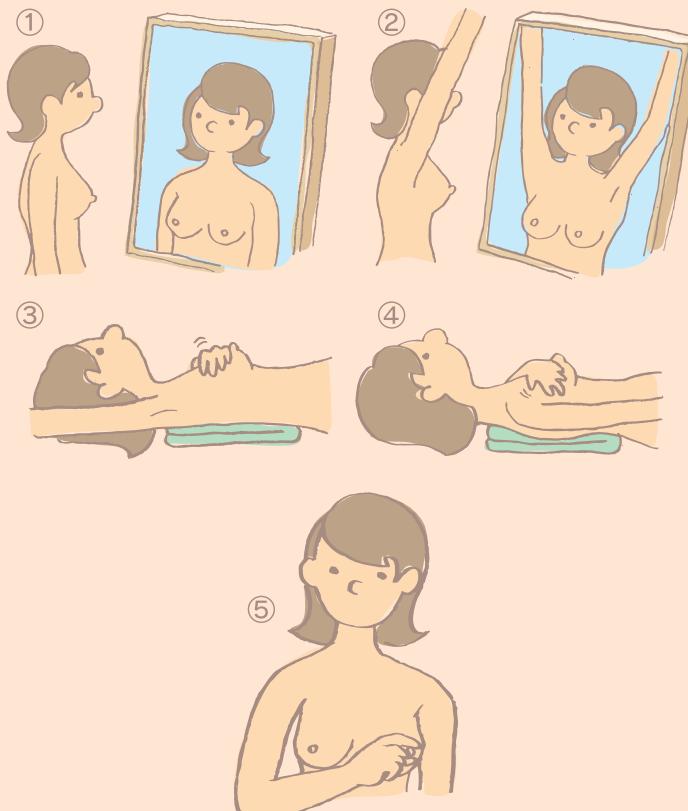


ayumi

さわるだけでも
いばしょは
わかるのです

がんを早く見つけるには?~その1:自己検診~ 乳がんの患者さんの多くは、自分でがんを早期に発見しています

女性で増えている乳がんのがん細胞の発育は、非常にゆっくりとしています。でも、浸潤が進むと骨や肺、肝臓、リンパ節などに転移しやすいという特性も。乳がんは比較的早期に発見しやすいがんでもあり、早期発見の多くは自分自身で体の異変に気付く「自己検診」をきっかけとしています。女性は月に1度は自分でチェックする習慣を身につけましょう。



★乳がんの自己検診

月経が終わってから1週間以内が目安。閉経した人は、任意に調べる日を決めます。

①両腕を下げてリラックス。左右の乳房の大きさや形に変化がないか、えくぼやひきつれができるないか、乳首に湿疹やただれはないかを見ます。

②両腕を上げた状態で①と同じことをチェックします。

③右肩の下に薄い枕をしき、右腕を上へのばします。左手の指の腹で右の乳房の内側半分をさわります。

④右腕を自然におろして、今度は右の乳房の外側半分をさわります。その後脇の下をさわり、リンパ腺が腫れていないかチェックします。③④について、左の乳房も同様に調べます。

⑤乳首を軽くつまんで、血の混じったおっぱいのようなもののがでていないかを調べます。

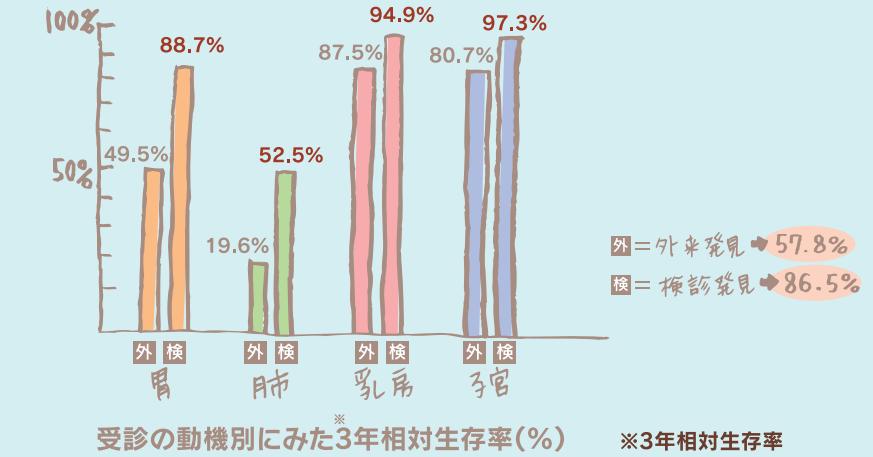
はやくみつけて
つかまえよう



Ogumi'

がんを早く見つけるには?~その2:定期検診~ がんが完治した人の多くは、定期検診を受診しています

がん検診のメリットは、自覚症状のない早期のうちにがんを発見できるということ。若い時から定期検診の習慣を身につけるのがベストですが、最低でも30歳、または40歳を節目に、年に1度は地域や職場の検診、人間ドックの受診を心がけましょう。早く見つけたらそれだけ治療効果を高めることができます。

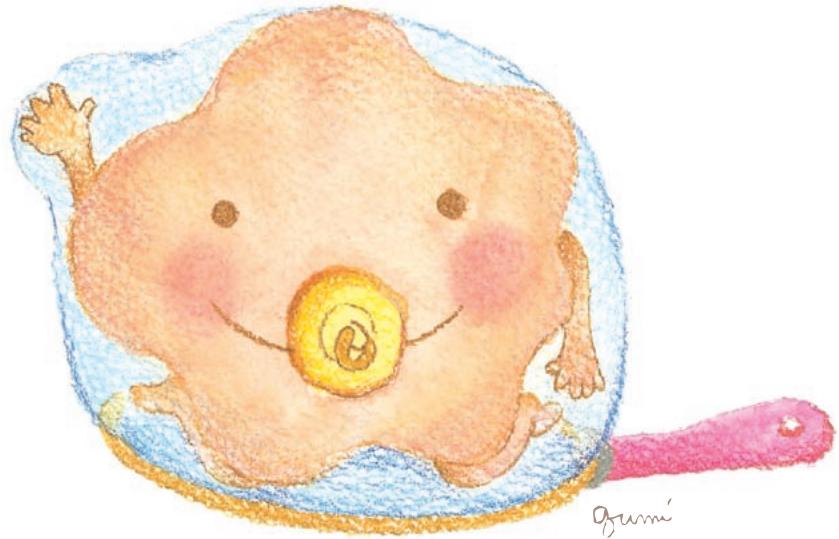


※3年相対生存率
一般の人たちの生存確率に対する、がん治療から3年後の患者の人たちの生存確率の比のことです。

早期がんの3年相対生存率(%)

部位	胃	結腸	直腸	肝	肺	乳房	子宮	計
上皮内						100%	99.9%	99.2%
限局	86.7%	85.7%	90.2%	18.2%	43.8%	97.4%	92.8%	76.2%

第5次悪性新生物実態調査報告による



細胞の異変は、誰にでも起こっています。

そして、それががん化してしまう原因是、

私たちの日常の生活習慣の中にあります。

大切なのは日常生活を見直すこと。

がんを引き起こす悪い習慣を改善しましょう。

万が一に備えて定期検診を受けましょう。

がんはしっかりと備えさえしておけば

いたずらにこわがる必要はありません。

60兆の細胞のわずか1個から始まる異変をいかに早く見つけるか—

それががんを治すための最良の手段。

早期発見と早期治療を心がければがんは決してこわくありません。

がん基幹医療施設及び全国がん(成人病)センター協議会施設一覧表

独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター	〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2-3-54	☎011(811)9111
青森県立中央病院	〒030-8553 青森市東造道2-1-1	☎017(726)8111
岩手県立中央病院	〒020-0066 盛岡市上田1-4-1	☎019(653)1151
宮城県立がんセンター	〒981-1293 名取市愛島塩手字野田山47-1	☎022(384)3151
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-8-8	☎022(293)1111
山形県立がん・生活習慣病センター	〒990-2292 山形市大字青柳1800	☎023(685)2626
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター	〒309-1793 笠間市鰐淵6528	☎0296(77)1121
栃木県立がんセンター	〒320-0834 宇都宮市陽南4-9-13	☎028(658)5151
群馬県立がんセンター	〒373-8550 太田市高林西町617-1	☎0276(38)0771
埼玉県立がんセンター	〒362-0806 北足立郡伊奈町小室818	☎048(722)1111
千葉県がんセンター	〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2	☎043(264)5431
国立がんセンター東病院	〒277-8577 柏市柏の葉6-5-1	☎04(7133)1111
国立がんセンター中央病院	〒104-0045 中央区築地5-1-1	☎03(3542)2511
独立行政法人国立病院機構東京医療センター	〒152-8902 目黒区東が丘2-5-1	☎03(3411)0111
財団法人癌研究会有明病院	〒135-8550 江東区有明3-8-31	☎03(3520)0111
東京都立駒込病院	〒113-8677 文京区本駒込3-18-22	☎03(3823)2101
神奈川県立がんセンター	〒241-0815 横浜市旭区中尾1-1-2	☎045(391)5761
新潟県立がんセンター新潟病院	〒951-8566 新潟市中央区川岸町2-15-3	☎025(266)5111
富山県立中央病院	〒930-8550 富山市西長江2-2-78	☎076(424)1531
静岡県立静岡がんセンター	〒411-8777 駿東郡長泉町下長窪1007	☎055(989)5222
福井県立病院	〒910-8526 福井市四ツ井2-8-1	☎0776(54)5151
愛知県がんセンター	〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1	☎052(762)6111
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	〒460-0001 名古屋市中区三の丸4-1-1	☎052(951)1111
滋賀県立成人病センター	〒524-8524 守山市守山5-4-30	☎077(582)5031
大阪府立成人病センター	〒537-8511 大阪市東成区中道1-3-3	☎06(6972)1181
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター	〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14	☎06(6942)1331
兵庫県立がんセンター	〒673-8558 明石市北王子町13-70	☎078(929)1151
独立行政法人国立病院機構吳医療センター	〒737-0023 呉市青山町3-1	☎0823(22)3111
山口県立総合医療センター	〒747-8511 防府市大字大崎77	☎0835(22)4411
独立行政法人国立病院機構四国がんセンター	〒791-0280 松山市南梅本町甲160	☎089(999)1111
独立行政法人国立病院機構九州がんセンター	〒811-1395 福岡市南区野多目3-1-1	☎092(541)3231
佐賀県立病院好生館	〒840-8571 佐賀市水ヶ江1-12-9	☎0952(24)2171

がん基幹医療施設及び全国がん(成人病)センター協議会に属しているこれらの施設は、がんの専門医を多数擁して、がんの診断と治療に積極的に取り組んでいます。

全国がん診療連携拠点病院と相談支援センター

がん診療連携拠点病院

全国どこにお住まいでも質の高いがん医療が受けられるよう、厚生労働大臣が指定した病院で、地域のがん診療の中心となる施設です。がん診療連携拠点病院は、専門的な知識と技能をもった医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、放射線技師などがそろつていて、手術、抗がん剤治療、放射線治療の体制が一定の基準を満たしていること、複数の診療科による協力体制が整っていること、緩和ケアが提供できることなどが条件となります。さらに、セカンドオピニオンが提供できること、地域の病院や診療所との連携体制が整っていること、相談支援センターが設置され、相談に応じていること、がんの患者さんに関するデータ管理(院内がん登録)をおこなっていることなども条件になっています。

国立がんセンターがん対策情報センターが作成しているパンフレット「全国の拠点病院と相談窓口の一覧(2008)」を必要な方は
国立がんセンターがん情報サービス [ganjoho.jp]へご連絡下さい。



[いぶき]はがん征圧のための基金です。皆さまのあたたかいお気持ちが前へ進む原動力となります。
この基金は様々な研究やイベント、広報活動に役立てられています。

- ご寄付はいくらからでもお受けしております
- 当財団への寄付金については税制上の優遇措置が適用されます
- 所得税、法人税及び相続税の寄付金控除が受けられます

※税制上の点及び寄付金控除等のことについては、ご相談下さい。(TEL 03-3543-0332)

発行 財団法人 がん研究振興財団

〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内
TEL(03)3543-0332 FAX(03)3546-7826
E-mail : info@fpcr.or.jp
ホームページ www.fpcr.or.jp
本パンフレットからの無断転載・複製は固くお断りします。

宝くじ♪ ステキな未来を築く夢。

より良い明日のために。宝くじは、大当たりのときめきとともに、収益金による街づくりを通じて皆さまの暮らしを応援しています。



(この道具「ひごっこシャンクル」(熊本市坪井川緑地公園内)は、宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

財団法人 日本宝くじ協会

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。
<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

